2025年度　事業報告書

たかし保育園市川二俣

1.管理業務の実施予定

①事業内容

開園時間　月～金 土	７:００～２０:００ ７:００～１９:００
産休明け保育	生後６ヶ月から受け入れ

②クラス編成

定員４０名（運営定員　43名）

	クラス名		定員	運営定員	４月在園時予定数
０歳	めばえ		4	5	2
１歳			6	6	6
２歳	ふたば		6	8	8
３歳 ４歳 ５歳	みのり(3.4.5歳児異年齢保育)		8 8 8	8 8 8	8 8 8

③職員体制

園長	１名	岡本
主任保育士	１名	阿久津
保育士	８名	鳴川、橋本、金子、三木、相樂、釼持、竹内（香)、滋野（育休中)
みなし保育士	２名	岩本、長野
栄養士	2名	竹内、安生（育休中）

２.年間行事実施予定

４月	入園式、慣らし保育　内科健診
５月	遠足（３～５歳児）　尿検査　　歯科検診
６月	東京経営短期大学、市川市南高校、市川市二俣小学校交流
７月	七夕の集い　プール遊び　夏祭り
８月	プール遊び
９月	総合避難訓練
１０月	

１１月	運動会　内科健診　遠足（３～５歳児）
１２月	歯科検診　　クリスマス会　もちつき
１月	初詣
２月	発表会　節分の集い
３月	ひなまつり　　卒園式・修了式　お別れ遠足（親子）
毎月実施	避難訓練　身体測定　誕生会（３～５歳児）＊０～２歳児は個別実施 クッキング（３～５歳児）　さわってみよう（０～２歳児）
その他	姉妹園交流会（３～５歳児）　地域交流 実習生・職場体験・ボランティア受け入れ

3.研修予定

①外部研修参加予定

研修名	対象者
会主催研修会	保育士・栄養士
全国市立保育連盟主催研修会	全職員
千葉県民間保育振興会主催研修会	全職員
全国保育協議会主催研修会	全職員
日本保育協会主催研修会	全職員
各保育業者主催研修会	保育士
保育園視察研修（公開保育）	保育士
【市川保健所主催研修会】 感染症研修会 給食施設衛生研修会 【市川市主催保育研修会】 保育士・栄養士研修会 施設長研修会 【市川子ども子育て支援施設協会主催研修会】 保育士・栄養士研修会 施設長研修会	保育士・栄養士
研修名	対象者
新人保育士研修会	新採用保育士
【保育大会】 全国市立保育園研究大会 全国保育協議会 全国保育士会研究大会 千葉県保育研究大会 保育所長研修会	 全職員 全職員 全職員 全職員 園長
千葉県社会福祉施設経営者協議会主催研修会	園長
キャリアアップ研修会	処遇改善Ⅱ対象職員

②内部研修

【保育会議】
・保育士を対象に月に１回実施
・保育会議において各クラスの情報を共有し、クラスの具体的な問題点を考えて解決に結びつけ、保育の質の向上を目指していく

【園内研修】
・保育士を対象に「保育指針」について理解し学び合う
・「たかし保育園市川二俣基本マニュアル」に基づいて職員教育を行う
・感染症対応、ケガや救急救命の対応、事故防止、事故対応など
　各種マニュアルについて研修を行うと共に、マニュアルを見直していく
・各々受けた研修を報告し合い、保育に活かせるよう知識を高めていく
・こども一人ひとりの発達に合わせた保育を提供できるようケース会議を行い、職員間の共通理解を図る
・保育士を対象に、事例を通して自分の保育を振り返る機会を設ける

③法人内研修

【担当者研修】
・法人内の各園に勤務する同年齢や同職種を担当している職員が、オンラインまたは集まってそれぞれの業務に関する悩みを相談したり意見交換したりすることで学び合うことを目的としている
・０～５歳児担任、新人職員、主任、栄養士、副主任等に分類し、担当別に行う

4.資金収支予算書
　別紙参照

5.地域交流
・東京経営短期大学小川助教授（体育指導)、古谷学科長補佐（音楽指導）による交流。
・市川南高等学校保育科と交流
・市川市二俣小学校交流
・近隣農家より農地を借用し、農業体験を行う。
・市川市高齢者クラブとの交流。

6.評価及び反省
1．年齢別の保育状況について
① ０・１歳児クラス
　０・１歳児クラスでは、感情が不安定なお子様が多く、物を投げる、噛みつくなどの行動が見られた。家庭での生活リズムの乱れや、保護者の接し方に課題が見られたため、必要に応じて保護者面談を実施し、改善に向けた支援を行った。また、家庭によっては支援センターから助言を受けながら連携を図り、徐々に安定した生活リズムが確立されていった。
　一方で、保護者自身の主張を優先し、お子様への愛情的な関わりが不足する家庭も増加

しており、対応の難しさを感じる場面もあった。
園生活では、枝豆やトウモロコシの苗植え、花壇の水やりなどの活動を通して植物への関心が高まり、自分たちで育てた食材を食育活動で調理することで、苦手な食材にも挑戦できるようになった。

② 2歳児クラス

2歳児クラスでは、精神的な幼さが目立ち、泣いてしまう、大声で主張するなどの姿が多く見られた。これらの課題に対し、保護者面談を重ね、家庭と協力しながら解決策を検討した。
また、お子様の自立を促すため、公共施設や公共交通機関を利用した保育を取り入れ、社会的なルールや周囲との協調性を学ぶ機会を設けた。家庭との連携が進むにつれ、子どもたちの自立心が育ち、成長が見られた。

③ 3・4・5歳児クラス

3・4・5歳児クラスでは、個別対応が必要なお子様が増加し、家庭および支援センターと連携しながら改善点を探った。外国籍のお子様については言語の壁があり、周囲とのコミュニケーションが難しい場面が見られたため、保護者と繰り返し面談し、支援を継続した。
また、東京経営短期大学・古谷教授による音楽教室、二俣小学校1・2年生との交流、市川南高校保育科との新たな交流（絵本読み聞かせボランティア、クリスマス会参加など）を実施した。園外活動を通じて多くの人と関わることで、コミュニケーション能力、公共の場でのマナー、自立心などを育む良い機会となった。

2. 全般的な取り組みについて

① 安全管理

令和6年度は、安全管理の徹底を最重要課題とし、職員間の連携を強化しながら死角のない保育を周知した。ヒヤリハット事例を過去に遡って集計し、毎月職員へ回覧することで、安全意識の共有と改善を図った。

② 食育・農業体験

月1回の食育活動に加え、全年齢で農業体験を実施し、食材に触れる機会を増やした。自分たちで育てた食材を調理することで、食への関心が高まり、苦手な食材にも挑戦する姿が見られた。

③ 子どもへの接し方

児童虐待や食事提供時の問題を取り上げ、新聞記事や市役所からの通達をもとに職員へ周知した。必要に応じて会議を設け、課題解決に向けて話し合いを行った。

④ 職員間のコミュニケーション

異年齢クラス間での交流を行い、子どもの発達に応じた計画を職員同士で検討した。意見交換を密に行うことでイベント運営が円滑になり、伝達ミスの減少にもつながった。

⑤ 地域との連携

東京経営短期大学の授業への参加（体力測定、楽器演奏、リトミックなど）を通じて地域との関わりを深めた。また、市川市立二俣小学校では、昔遊びや集団遊び、制作活動を通して児童との交流を図ることができた。